

新設教員養成課程に所属する初年次生の体育授業観に関する 基礎的調査

A Baseline Study on the Views of First-Year Students in a Newly Established Teacher Training Program Regarding Physical Education Classes

常浦 光希¹・山口 徹尚¹・杉山 貴義¹
Kouki TSUNEURA・Tetsuhisa YAMAGUCHI・Kiyoshi SUGIYAMA

Abstract

This study aimed to clarify the multifaceted views on physical education (PE) among 35 first-year students in a new teacher training program. Using a mixed-methods approach, it examined their perspectives on both elementary and secondary school PE. The study utilized a questionnaire with a quantitative scale (15 items, 3 factors) and open-ended questions. Quantitative data were analyzed with non-parametric tests, while qualitative data from free descriptions were analyzed using text mining and cluster analysis to establish student typologies.

The cluster analysis revealed three view types for elementary PE (Enjoyment-Relation, Autonomy-Process, and Instruction-Mutual Support) and two for secondary PE (Character Formation-Cooperation, and Competitive-Game Activity). A significant relationship was found between the secondary PE view types and scores on the quantitative Ideal Class factor ($p < .05$), validating the typology. Past sports experience also correlated with certain PE views.

These findings suggest that first-year students hold diverse, structured beliefs about PE that differ by school level. This research provides foundational data for teacher education, especially in elementary PE methods courses, highlighting the need for programs that acknowledge and develop these varied initial student perspectives.

1. 緒言

教師には、自らの力量を継続的に高めていく姿勢が求められる。この力量を構成する中核的な要素として、教師がどのような授業を良いと捉えているかという「授業観」が挙げられており、その形成は教師の成長において重要な役割を果たすことが指摘されている（木原，2004；成家ほか，2018）。特に体育科教育においては、教師が持つ授業観が実践や学習成果を直接的に規定する重要な信念であることが明らかにされている（朝倉，2016）。

このような背景から、主に教員養成課程の学生を対象として、体育授業観の実態やその変容を検討する研究が蓄積されてきた（例えば、嘉数・岩田，2013）。しかし、指導経験が欠如している養成段階の学生にとって、指導者としての「指導観」を直接問うことは難しい。そこで、学習者自身の視点から捉えた「学習観」を調査することが、間接的に指導観を探る有効なアプローチとして注目されている（伊藤・伊東，2014；白石ほか，2020）。

これまでの先行研究では、学生の体育学習観の実態や、特定の授業によるその変容が検討されてきた（江藤・三田，2023；白石ほか，2020）。しかし、その多くは「体育」という大きな枠組みで授業観を捉えており、学生が将来指導することになる「小学校」と「中学校・高等学校」とで、その授業観がどのように異なるのかという複層的な構造については十分に検討されてこなかった。また、量的尺度による分析が中心であり、学生が自らの言葉で語る授業観の質的な側面と、量的尺度への回答と

1 くらしき作陽大学健康スポーツ教育学部 *The Faculty of Health and Sports Education, Kurashiki Sakuyo University*

の関連を探る試みは十分とは言えない。

そこで本研究では、新設の教員養成課程に所属する初年次生を対象とし、彼らが「良い体育授業」についてどのように考えているのかを、量的・質的データの双方から分析することで、その複層的な実態を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

2-1. 調査対象と手続き

本研究の対象は、2025年度に新設された教員養成課程に所属する初年次生35名（男性26名、女性9名）であった（表1）。データは、2025年5月に実施した質問紙調査から得られたものである。なお、本研究は、くらしき作陽大学倫理審査会により承認を経て実施された（2025年度作大36号）。

表1 調査対象者の属性

属性	カテゴリー	人数	割合 (%)
性別	男性	26	74.3
	女性	9	25.7
希望校種	中高保健体育	28	80.0
	小学校	7	20.0
得意スポーツ	団体競技	29	82.9
	個人競技	6	17.1
体育系専門授業	履修経験あり	11	31.4
	履修経験なし	24	68.6
合計		35	100.0

2-2. 調査項目

(1) 基本属性

性別、希望校種（中高保健体育または小学校）、得意スポーツ（団体競技／個人競技）、高校時代の体育系専門授業の履修経験などを尋ねた。

(2) 体育授業観尺度

嘉数（2012）の尺度を参考に、体育授業観を測定した。この尺度は「①生徒を動機づける授業」「②雰囲気の良い授業」「③理想的な授業」の3因子15項目で構成されている。嘉数（2012）によれば、「生徒を動機づける授業」は生徒の興味関心や上達実感に関連する項目から、「雰囲気の良い授業」は生徒の意欲や笑顔といった授業の雰囲気に関連する項目から、「理想的な授業」は教師と生徒の一体感や個性の重視といった関係性や指導法に関連する項目から構成される。本研究ではこれらについて、「全くそう思わない（1点）」から「強くそう思う（5点）」の5段階で回答を求めた。

(3) 自由記述

「あなたが思う『良い小学校での体育授業』とはどのような授業ですか」「あなたが思う『良い中学校・高等学校での体育授業』とはどのような授業ですか」という2つの問いに対し、自由に記述を求めた。

2-3. 分析手続き

統計分析にはIBM SPSS Statistics 29を用いた。まず、体育授業観尺度の信頼性をクロンバックの α 係数により確認した。次に、学生の属性（希望校種、得意スポーツなど）と3つの因子得点との関連について、正規性の検定の結果を踏まえ、ノンパラメトリック検定（マン・ホイットニーのU検定）を用いて検討した。

続いて、自由記述データを対象に、Text Coder X for SPSS 1.1を用いてテキストマイニングを行い、

品詞（名詞、動詞、形容詞）を基に単語を抽出した。次に、各学生がどの単語を何回使用したかという出現頻度データを基に、回答パターンの類似性から学生をグループ分けするため、階層クラスター分析を実施した。これは、自由記述で使われた言葉が似ている学生同士は、体育授業観も近いだろうという考えに基づいている。本研究では、形成されたグループ内の均質性が高くなるように統合してウォード法を採用し、学生の授業観の類型化を試みた。最後に、得られたクラスター（授業観タイプ）と学生の属性、および3つの因子得点との関連について、クロス集計分析およびt検定を用いて検討した。統計的有意水準は5%未満とした。なお、本研究の実施にあたり、開示すべき利益相反（COI）はない。

3. 結果

3-1. 調査対象者の属性

まず、分析に先立ち、調査対象者の属性を概観する。対象者35名のうち、希望校種は、「中高保健体育」が28（80.0%）と大多数を占め、「小学校」は7名（20.0%）であった。得意なスポーツについては、「団体競技」が29名（82.9%）、「個人競技」が6名（17.1%）であった（表1）。

3-2. 体育授業観尺度の信頼性

本研究では、サンプルサイズが限られていることから、新たに探索的因子分析は行わず、嘉数（2012）の先行研究で示された3因子構造を援用した。その因子構造に基づき信頼性分析を行った結果、クロンバックの α 係数は「生徒を動機づける授業」が.933、「雰囲気の良い授業」が.858、「理想的な授業」が.919であり、いずれも高い内的整合性が確認された（表2）。

表2 体育授業観尺度の信頼性

因子（下位尺度）	項目数	α 係数
生徒を動機づける授業	7	.933
雰囲気の良い授業	4	.858
理想的な授業	4	.919

3-3. 学生の属性と体育授業観の関連

学生の属性と3つの因子得点との関連をマン・ホイットニーのU検定で検討した結果、以下の2点について有意な差が認められた。第一に、高校時代に体育系専門授業の履修経験が「ある群」（ $n=11$ ）は、「ない群」（ $n=24$ ）と比較して、「雰囲気の良い授業」因子の平均順位が有意に高かった（ $U=76.0$, $p=.047$ ）。第二に、得意スポーツが個人競技で「ある群」（ $n=6$ ）は、団体競技で「ある群」（ $n=29$ ）と比較して、「生徒を動機づける授業」因子の平均順位が有意に高かった（ $U=40.0$, $p=.040$ ）。一方で、希望校種や性別による因子得点の有意な差は認められなかった。

3-4. 自由記述に基づく授業観の類型化

自由記述のテキストデータを基にクラスター分析を行った結果（図1、2）、小学校と中高の授業観それぞれについて、特徴的な学生のタイプが抽出された（表3）。

（1）小学校の体育授業観の3タイプ

「良い小学校の体育授業」観は、以下の3タイプに分類された。タイプ1「エンジョイメント・リレーション型」（24名）は、「楽しい」「みんなで」といったキーワードに代表されるように、体育の価値を情緒的な満足感や集団での一体感に強く見出すタイプと解釈した。次に、タイプ2「主体性・プロセス重視型」（10名）は、「やってみたい」「考える」「チャレンジ」といった言葉が示すように、楽しさを前提としつつも、児童の主体性や成長のプロセスを重視するタイプと解釈した。続いて、タイプ3「指導・共助型」（1名）は、「出来る人が出来ない人に教える」と記述し、指導法やスキル差の是正といった教師的視点を持つ特異なタイプと解釈した。

(2) 中高の体育授業観の2タイプ

「良い中高の体育授業」観は、以下の2タイプに分類された。タイプ1「人間形成・協同追求型」(29名)は、「主体性」「協力」「目標達成」といったキーワードで特徴づけられ、体育活動のプロセスを通じた内面的な成長や協同性を重視するタイプと解釈した。タイプ2「競技・ゲーム活動型」(6名)は、「試合」「勝ち負け」「ルール」といった言葉が示すように、スポーツを競技活動として捉え、その活動自体を重視するタイプと解釈した。

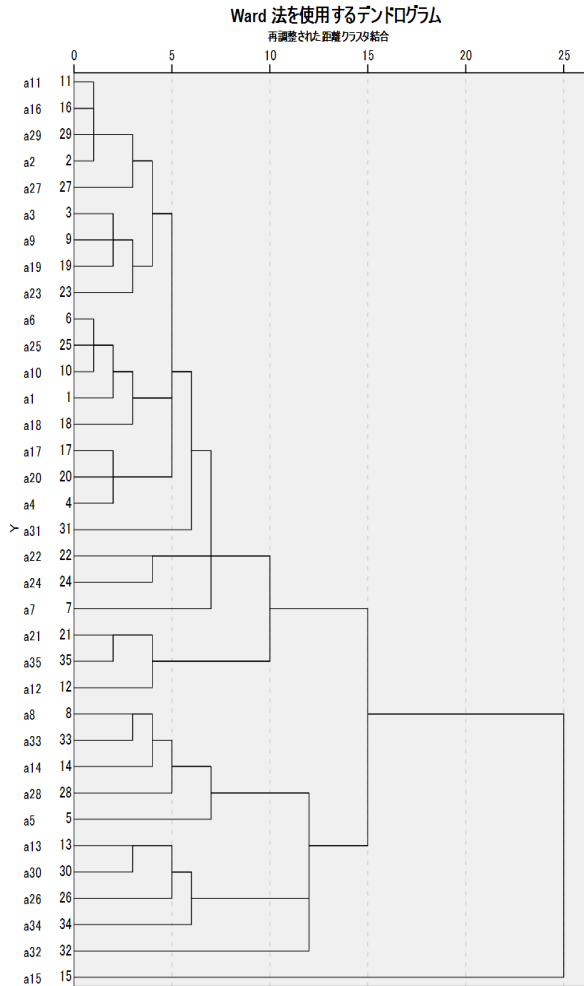


図1 小学校の体育授業観に関するクラスター分析のデンドログラム

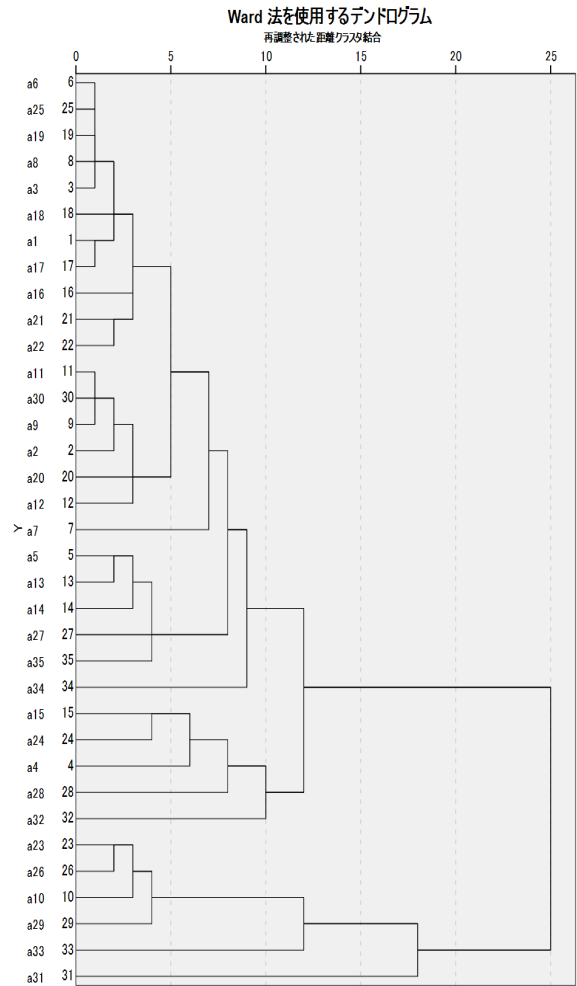


図2 中高の体育授業観に関するクラスター分析のデンドログラム

表3 自由記述から抽出された体育授業観のタイプ

校種	タイプ名	N	特徴的なキーワード
小学校	エンジョイメント・リレーション型	24	楽しい、みんなで、楽しむ、仲良くなる
	主体性・プロセス重視型	10	やってみたい、考える、チャレンジ、成功
	指導・共助型	1	教える、出来る人、出来ない人
中高	人間形成・協同追求型	29	主体性、協力、目標達成、成長
	競技・ゲーム活動型	6	試合、勝ち負け、ルール、球技

3-5. 授業観のタイプと量的データの関連

抽出された授業観のタイプと、希望校種および因子得点との関連を検討した(表4)。小学校観のタイプと希望校種のクロス集計では、統計的に有意な関連は認められなかったものの($\chi^2(2)=5.469$, $p=.065$)、「エンジョイメント・リレーション型」に中高体育希望者が偏る傾向(28名中21名)が見られた。一方、中高観のタイプと3つの因子得点を比較したところ、「理想的な授業」因子において、「人間形成・協同追求型」の平均点($M=4.23$)が、「競技・ゲーム活動型」($M=3.08$)に比べて統計的に有意に高いことが示された($t(33)=2.748$, $p=.010$)。

表4 中高体育授業観のタイプと「理想的な授業」因子得点の比較(t検定)

授業観タイプ	N	平均値	標準偏差	t値	自由度	p値
人間形成・協同追求型	29	4.23	.79	2.748	33	.01 *
競技・ゲーム活動型	6	3.08	1.51			

* $p < .05$

4. 考察

本研究では、新設教員養成課程の初年次生が持つ体育授業観の複層的な実態を、量的・質的アプローチを統合して明らかにすることを試みた。

まず、学生の属性と体育授業観の関連からは、高校時代の体育系授業の経験や個人競技の経験が、それぞれ特定の授業観を志向する背景要因となりうることが示唆された。体育教師が抱く価値観は、教員養成課程に入学する以前の授業経験やスポーツ経験から影響を受けることが指摘されており(朝倉, 2016)、本研究の結果もこれを支持するものである。特に、得意なスポーツが個人競技の学生は、「生徒を動機づける授業」因子が高い傾向にあったが、これは陸上競技を対象とした常浦ほか(2024)の研究において、個人の種目経験者が「運動の魅力の感受」で高い得点を示したという結果とも整合的である。このように、本研究の結果も、学生の価値観形成における過去の経験の重要性を支持するものである。

本研究の主要な知見は、自由記述の分析から、学生たちの体育授業観が明確なタイプに分類できた点にある。特に興味深いのは、中高の体育授業観について抽出された「人間形成・協同追求型」と「競技・ゲーム活動型」という2つのタイプが、量的尺度である「理想的な授業」因子の得点と統計的に有意な関連を示したことである。これは、自由記述から見出された類型が、単なる言葉選びの違いではなく、学生の信念レベルでの質的な違いを反映していることを強く示唆している。入学初期の学生であっても、教職志望度の高い者は体育授業が持つ認知的側面を高く評価するなど、多様な学習観を有することが報告されているが(白石ほか, 2020)、本研究の結果は、その価値観が複層的な構造を持っていることを質的データとの関連から裏付けたと言える。

さらに、小学校観と中高観の関連を見ると、多くの学生が小学校段階では「楽しさ」を、中高段階では「人間形成」を重視するという、指導対象の発達段階に応じた素朴な授業観を持っている可能性が浮かび上がった。大村ほか(2025)は、初年次生が持つ素朴な授業観の実態を捉えることの重要性を指摘しているが、本研究の結果は、その素朴な授業観が指導対象の校種によって異なるという複層性を持つことを示している。教員養成課程での学び、特に教育実習などを通じて学生の授業観が変容することは多くの研究で指摘されている(嘉数・岩田, 2013)。このことは、今後の教員養成課程において、学生が漠然と抱いている発達観を自覚化させ、体育科教育の理論的知見と結びつけながら、より専門的な指導観へと深化させていく必要性を示唆している。

5. 結論

本研究は、新設教員養成課程の初年次生を対象に、彼らが持つ体育授業観の実態を量的・質的デー

タから多角的に検討した。その結果、学生の体育観は単一ではなく、小学校と中高という校種の違いや個人の価値観を反映した複数のタイプに分類される複層的な構造を持つことが明らかになった。特に、自由記述のテキストマイニングとクラスター分析によって抽出された授業観のタイプは、量的尺度への回答とも有意な関連を示し、学生が持つ信念レベルでの質的な違いを捉えていることが示唆された。

本研究の知見は、特に初等体育の教員養成において重要な示唆を与える。本研究で明らかになった小学校体育授業観の3タイプ「エンジョイメント・リレーション型」「主体性・プロセス重視」「指導・共助型」は、入学初期の学生が持つ多様な出発点を具体的に示している。大多数を占める「エンジョイメント・リレーション型」の学生が持つ、より教育的・方法論的な視点を、コース全体の学びの中でいかに共有し、全ての学生の専門的力量へと高めて行くかが課題となる。江藤・三田（2023）も指摘するように、指導法の授業を通じて学生の学習観は変容しうる。本研究の結果は、その変容を促すための効果的な授業を設計する上で、学生の初期状態を理解するための基礎的資料として貢献するものである。今後の課題としては、今回明らかになった初年次生の体育授業観が、4年間の学びを通じてどのような変容、深化していくのかを追跡する縦断的研究が挙げられる。

文献

- 朝倉雅史（2016）体育教師の学びと成長：信念と経験の相互影響に関する実証研究. 学文社.
- 江藤真生子・三田沙織（2023）教科の指導法に関する科目における教師志望学生の体育授業の学習観及び学習方略に関する事例的検討：教職志望度に着目して. 琉球大学教育学部紀要102：169-178.
- 伊藤真帆・伊東英（2014）教員養成課程の学生の小学校外国語活動の指導観—英語学習観の観点から—. 岐阜大学カリキュラム開発研究, 31(1)：51-61.
- 嘉数健悟（2012）体育教師志望学生の体育授業観に関する事例研究：因子構造と学年間の差異. 広島大学大学院教育学研究科紀要第二部61：291-297.
- 嘉数健悟・岩田昌太郎（2013）教員養成段階における体育授業観の変容に関する研究：教育実習の前後に着目して. 体育科教育学研究, 29(1)：35-47.
- 木原俊行（2004）授業研究と教師の成長. 日本文教出版.
- 成家篤史・鈴木直樹・石塚諭（2018）体育の指導観形成における組織内の教師間の関係性に関する研究：小学校教師に着目して. 体育科教育学研究34(1)：1-16.
- 大村悠真・辻翔吾・富岡宏健・常浦光希・齊藤一彦（2025）保健体育科教員養成課程における初年次段階の学生が有する「陸上競技授業観」の実態. 広島体育学研究51：1-12.
- 白石智也・房野真也・森木吾郎・高田康史・前田一篤・松本佑介・藤島廉（2020）保健体育科教員養成課程入学者の体育学習観に関する調査研究：教職志望度の差異に着目して. 人間健康学研究 3：51-57.
- 常浦光希・阿部直紀・松本佑介・齊藤一彦（2024）大学生がもつ陸上競技授業の学習観に関する研究：過去の運動・スポーツ経験に着目して. 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要教育学研究 5：99-104.